

黒部市地域公共交通計画骨子（案）について

1. 地域公共交通計画策定の方向性

（１）公共交通を取り巻く状況

① 第２次網形成計画の数値目標の達成状況（見通し）と成果

【目標達成状況】

○指標１：市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数

⇒ 目標未達成

・実績値 134,555 人/年（R3/10～R4/9）（目標値 200,000 人/年）

○指標２：市内鉄道の利用者数

⇒ 目標未達成

・実績値 2,183 千人/年（R3/4～R4/3）（目標値 3,674 千人/年）

○指標３：公共交通利用圏域内 町内会人口率 ⇒ 目標達成

・実績値 100%（R5/4）（目標値 99.9%）

○指標４：１年に１回以上公共交通を利用する市民の割合

⇒ 目標未達成

・実績値 58.1%（R1）（目標値 80.0%）

○指標５：市内公共交通への満足度

⇒ 目標未達成

・実績値 2.59（R1）（目標値 3.5）

【成果】

- ・公共交通網の一定のサービス水準を確保
- ・まちづくりと連携した取組により公共交通の利便性が向上
- ・利用促進の取組等により一定の利用者数を確保

② 顕在化した地域交通の問題

- 人口減少等による長期的な利用者の落ち込みの継続
- 新型コロナウイルス感染症の拡大、ライフスタイルの変化
- 運行事業の官民負担額の増大【継続】
- 慢性的な運転手の不足【継続】

③ 公共交通をめぐる国・県の動き

【国の動き】地域公共交通「リ・デザイン」（再構築）R5.4

※地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律

- ・地域の関係者の連携・協働＝「共創」により利便性・持続可能性・生産性を向上

【県の動き】富山県地域交通戦略 R5 年度策定予定

- ・目指すべき姿：①鉄軌道サービスの利便性・快適性向上／②ネットワーク内のサービスの統合・進化／③結節点となる駅の機能強化／④地域内のモビリティサービスの確保

④ まちづくり等の動き

○これまでの動き（R2.4～R6.3）

- ・民間によるまちづくりの取組の進展（I-TOWN 等）
- ・大型商業施設や温浴施設のオープン（プラント等）
- ・道の駅「KOKO くらべ」のオープン（R4.4）
- ・くらべ市民交流センター「あおーよ」のオープン（R5.10）
- ・北陸新幹線の敦賀延伸（R6.3）

○今後の動き（R6.4～）

- ・黒部宇奈月キャニオンルート的一般開放（R6.6）
- ・国道 8 号バイパスの 4 車線化

（２）地域公共交通計画策定に向けた課題

① 公共交通サービスのさらなる改善

○ 市内の交通資源の効率的な活用と充実

- ・公共交通網の持続、利便性の向上を図るには、既存公共交通資源の効率的な運用と、公共交通以外の輸送資源の活用が必要
- ・高齢化社会の進展や多様化する移動ニーズ（暮らしの足の充実、ラストワンマイルの解消等）に対応するため、よりきめ細やかな移動手段の確保により、出かけやすい、出かけてたのしいまちづくりが必要

○ 交通 D X への対応

- ・持続可能な公共交通を維持するため、デジタル技術を活用した新たなサービス（キャッシュレス決済、運行情報等）の検討が必要
- ・効率的かつ利便性の高い A I 等を活用した運行の導入の検討が必要

○ 継続的な担い手の確保

- ・公共交通網の持続を図るには、運転手の継続的な確保（人材流出の抑制・新規雇用）に向けた取組が必要

② 移動需要の創出・集約の取組との連携

○ コンパクトプラス公共交通ネットワークの充実

- ・鉄道を基軸とした公共交通ネットワークによる生活拠点と中心市街地との連携の推進が必要

○ 駅や駅周辺のまちづくりとの連携

- ・駅の利便性向上を図るとともに、公共交通と中心市街地や駅周辺のまちづくりとの連携が必要

○ 観光資源と連携した公共交通の利用促進

- ・黒部宇奈月キャニオンルート的一般開放などの新たな需要に対応するため、アクセス環境の確保とともに利便性向上に向けた取組が必要

③ 公共交通に対する関係者の連携・協働による取組の推進

○ 地域の多様な関係者の連携・協働

- ・公共交通は、「安全・安心でくらしやすく、魅力あふれる地域を作り上げる為に必要な基盤的サービス」であることから、多様な関係者が公共交通を“自分ごと”として捉え、連携・協働して取り組んでいくことが必要

○ 市民・企業・店舗等の取組の推進

- ・地域の活力・魅力に直結する公共交通を、市民の側から支えるべく、利用者としての取組（利用頻度の向上）とともに、支え手・担い手としての取組の検討が必要

④ 公共交通環境のさらなる向上

○ 公共交通の利用環境の向上

- ・利用者数の回復・向上に向け、運行情報の充実や待合環境の改善などの利用環境の向上のための取組が必要

（３）地域公共交通計画策定の方向性

① 公共交通網の持続可能性・利便性の向上

○ 運行事業の効率化

- ・集客施設との連携強化（ルート・ダイヤ等の見直し）
- ・利用実態に合わせたサービス形態の見直し（A I デマンド交通等の導入検討）

○ 輸送資源の積極的な活用と充実

- ・スクールバスの活用や福祉輸送との連携の検討
- ・電動小型カートの活用検討 等
- ・町内会や地域住民と連携した生活の移動を支え合う新しい運行形態の導入検討

○ 交通事業者の経営環境の改善

- ・交通事業者と行政との緊密な連携による運行形態の検討
- ・事業者間が連携して行う採用活動への支援
- ・人材の雇用・育成等に関する支援策の検討
- ・労働環境整備への支援策の検討 等

② まちづくりや観光との連携

○ 中心市街地を結ぶ公共交通ネットワークの維持

- ・地域鉄道、路線バス、デマンド交通等による中心市街地へのアクセス機能の維持

○ 駅の利便性向上と中心市街地での新たな移動手段の整備

- ・エレベーター、多目的トイレ等の整備による駅のバリアフリー化や東西出入（改札）口の整備（黒部駅、生地駅）
- ・中心市街地での電動小型カートの導入検討 等

○ 観光資源との連携強化

- ・鉄道との乗継利便性の向上（ダイヤ・デジタルサイネージの改善）

③ 市民・企業・店舗等の公共交通へのさらなる参画

○ 利用者としての参画の促進

- ・健康増進、環境負荷、行政コスト等を考慮し、車への過度な依存から公共交通等の多様な交通手段を適度に利用する生活への移行を促進する取組の検討（市民に対する多面的メリットの啓発、公共交通利用習慣づくり、免許返納時における啓発手法・関係者との連携方策の検討 等）

○ 支え手・担い手としての参画の促進

- ・沿線企業、店舗等のスポンサーとしての参画や公共交通とタイアップした取組等による利用促進の検討
- ・地域バス等の地域で支える移動手段の検討 等

④ 情報環境の充実と交通基盤の整備

○ 情報環境の充実

- ・M a a S の市民利用につながる新たな機能等の検討
- ・リアルタイム運行情報等へのアクセス改善 等

○ 交通サービス提供のための基盤整備

- ・駅・バス停、車両等の交通基盤の整備 等

2. 第2次網形成計画の検証

(1) 第2次網形成計画の目標達成状況

- ・目標指標 3 については、目標を達成
- ・目標指標 1、2、4、5 については、新型コロナウイルスの影響等があり、目標を未達成

	R1 現状値 (集計期間)	目標値 (集計期間)	評価値 (集計期間)	数値目標の 達成状況
目標指標 1 市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数	189,886 人/年 (H30/10～R1/9) 189,787 人/年 (H30/4～H31/3)	200,000 人/年 (R5/10～R6/9) (R5/4～R6/3)	134,555 人/年 (R3/10～R4/9) 131,361 人/年 (R3/4～R4/3)	×
目標指標 2 市内鉄道の利用者数	3,471,161 人/年 (H30/4～H31/3)	3,674,000 人/年 (R5/4～R6/3)	2,183,082 人/年 (R3/4～R4/3)	×
目標指標 3 公共交通利用圏域内 町内会人口率 (交通空白地域の解消)	99.9% (H31/3 時点)	99.9% (R6/3 時点)	100.0% (R5/4 時点)	○
目標指標 4 1 年に 1 回以上公共交通を利用する市民の割合	58.1% (R1 年度アンケート)	80.0% (R6 年度アンケート)	50.3% (R5 年度アンケート)	×
目標指標 5 市内公共交通への満足度	2.59 (R1 年度アンケート)	3.50 (R6 年度アンケート)	2.57 (R5 年度アンケート)	×

数値目標の 達成見通し	評価の基準
○	・評価値が目標値を上回った場合
△	・評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していることが認められる場合
×	・評価値が目標値には達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

(2) 第2次網形成計画に位置づけた事業の進捗状況

- ・第2次網形成計画に位置付けた 32 の事業については、概ね計画期間中に実施している。

体系① 鉄道を軸とした公共交通網の維持

- ・体系①に位置付けた事業は、新型コロナウイルスの影響を受けた取組があるものの、概ね計画通り事業を実施中である。

実施状況凡例 [○:計画通り進捗 △:進捗に課題がある]			
番号	事業名	令和5年度までの進捗	
		実施状況	主な実施概要
1	北陸新幹線と市内交通機関との連携	○	・新幹線乗降調査は、継続して定点調査を実施した。 ・「新幹線通勤通学支援補助金」による支援を継続的に実施した。
2	あいの風とやま鉄道と市内交通機関との連携	○	・黒部駅と道の駅ＫＯＫＯくろべを結ぶ路線の見直しを実施した。 ・コロナ禍においても感染拡大防止対策やダイヤの維持に努めた。
3	富山地方鉄道本線と市内交通機関との連携	○	・明峰中学校の開校とその後の通学実態に合わせたダイヤ改正を行い、利便性の確保に努めた（R2・R3）。 ・コロナ禍においても感染拡大防止対策やダイヤの維持に努めた。
	(4～11 共通)		・コロナ禍においても感染拡大防止対策やダイヤの維持に努めた。
4	新幹線市街地線の維持及び利便性向上	△	・路線バス動態調査による利用ニーズの再検討や課題の整理を実施した。 ・運行経路やダイヤの見直しは実施できなかった。
5	新幹線生地線の維持及び利便性向上	△	・路線バス動態調査による利用ニーズの再検討や課題の整理を実施した。 ・運行経路やダイヤの見直しは実施できなかった。
6	生地循環線の維持及び利便性向上	○	・道の駅ＫＯＫＯくろべへの運行を開始した（R4）。
7	石田三日市線の維持及び利便性向上	△	・路線バス動態調査による利用ニーズの再検討や課題の整理を実施した。 ・道の駅ＫＯＫＯくろべへの乗入れの見直しは実施できなかった。
8	池尻線の維持及び利便性向上	○	・福平地域までの延伸を開始した（R5）。
9	南北循環線の維持及び利便性向上	△	・路線バス動態調査による利用ニーズの再検討や課題の整理を実施した。 ・運行経路やダイヤの見直しは実施できなかった。
10	愛本コミュニティタクシーの維持及び利便性向上	○	・スクールバスを活用した実証運行事業と連携した運行を行った。
11	デマンドタクシーの維持及び利便性向上	○	・周知活動や運転免許証自主返納の取組などにより、登録者が増加した。
12	アルペンライナー（宇奈月温泉立山室堂線）の運行	△	・観光客へのＰＲの取組は、積極的に実施することができなかった。 ・令和2・3年度において利用者が大きく減少したが、令和4年度には県と連携し運行の拡充を図り、利用者の回復に努めた。

体系② 公共交通網を支える潜在的需要の開拓

- ・体系②に位置付けた事業は、計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [○:計画通り進捗 △:進捗に課題がある]

番号	事業名	令和５年度までの進捗	
		実施状況	主な実施概要
13	情報提供や利用促進に向けた取組の充実	○	・毎年、市民へのバス時刻表、コミュニティ通信の配布を実施した。 ・毎年、公共交通マップを更新し、主要施設や各地区公民館へ配布し、市内路線バスの周知を図った。 ・ホームページ、市のＬＩＮＥとも連携し、市内公共交通に係る情報発信を行った。
14	利用促進に向けた運賃設定と企画切符等の発行	○	・「くるワンきっぷ」や「親子でお出かけ事業」における企画切符や新幹線生地線の１日フリー切符の発行などによる利用促進に努めた。 ・近隣市町路線バス運賃との比較など今後の運賃体系の方向性の整理を行った（R3）。 ・運賃単価の平準化に向けた検討を実施した。
15	運転免許自主返納と連携した利用促進	○	・広報、コミュニティ通信、出前講座等で制度の周知に努めた。 ・黒部市高齢者運転免許自主返納支援事業を通じたフリーパスの交付は、路線バスの利用促進に寄与している。
16	黒部宇奈月温泉駅駐車場の運用方法の検討	○	・週末や連休における満車の改善を図るため、第２、第３駐車場の有料化整備を行った。
17	交流施設の整備に合わせたバス路線の見直し	○	・令和４年度から生地循環線が道の駅ＫＯＫＯくろべまでの運行を開始した。 ・令和５年度は、石田三日市線について道の駅ＫＯＫＯくろべへの乗入れの検討を実施している。

体系③ 公共交通網の持続に向けた運行体系の確立

- ・体系③に位置付けた事業は、進捗に課題があった。

実施状況凡例 [○:計画通り進捗 △:進捗に課題がある]

番号	事業名	令和５年度までの進捗	
		実施状況	主な実施概要
18	バス路線等の定期的な見直しの検討	△	・改善に向けて路線ごとの利用者数、収支状況を年度ごとに取りまとめて、作業部会及び協議会で報告を行った。 ・路線バス動態調査による利用ニーズの把握や課題整理を実施し、いくつかの路線については、見直しに向けた作業を進めている。
19	路線バスとスクールバス等との一体的な運行に向けた検討	△	・路線バスとスクールバス等の一体的な運行については情報収集のみに留まった。 ・令和５年度に内山・音沢地区で愛本コミュニティタクシーに接続する暮らしのサポート便の実証運行を実施している。
20	運転手確保の取組への支援	△	・作業部会において、運転手育成の課題について、他自治体の補助制度を研究するため、情報収集を行った。 ・協議会発行のコミュニティ通信による広報活動を継続した。
21	地域バス・タクシー導入可能性の検討	△	・「地域内の移動を住民同士で支え合う」仕組みについて、他自治体の先進事例の研究に留まった。

体系④ 新幹線効果の維持・向上

- ・体系④に位置付けた事業は、進捗に課題があった。

実施状況凡例 [○:計画通り進捗 △:進捗に課題がある]

番号	事業名	令和５年度までの進捗	
		実施状況	主な実施概要
22	黒部ルート一般開放に伴う既存公共交通の利用促進	△	・ツアー内容の詳細（時間帯等）が確定していないため、令和５年度では具体的な事業を実施する段階には至っていない。

体系⑤ 利便性と魅力を高める公共交通環境の提供

- ・体系⑤に位置付けた事業は、おおむね計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [○:計画通り進捗 △:進捗に課題がある]

番号	事業名	令和５年度までの進捗	
		実施状況	主な実施概要
23	バス待合環境の改善	○	・電鉄黒部駅バス停に上屋を整備し、待合環境の改善を図った（R3）。 ・道の駅ＫＯＫＯくろべバス停の上屋工事の実施設計を行った（R4）。
24	無料公共自転車「ちょいのり黒部」の整備・運用	○	・新たなステーションの設置に向けた検討を行った。 ・登録者数は順調に伸びている。 ・観光需要の把握のため、黒部宇奈月温泉駅で実証実験に活用した。 ・「公共交通で行こう」ホームページやコミュニティ通信による制度周知を継続している。
25	駅施設の修繕・改善とパーク＆ライド駐車場の整備	○	・東三日市駅トイレの改修を行い、利用環境の改善を図った（R3）。 ・黒部駅の施設整備に向けた検討・協議を実施した。 ・黒部宇奈月温泉駅の無料駐車場によるパーク＆ライド機能の確保を行った。 ・黒部駅駐輪場及び生地駅駐輪場の照明のＬＥＤ化を行った（R5）。
26	交通情報提供システムを利用した利便性の向上	○	・令和元年度から運用を開始した「とやまロケーションシステム」や黒部駅、市民病院等の「デジタルサイネージ」により、分かりやすい交通情報の提供に努めた。
27	車両及びバス停のデザイン化促進	○	・路線ごとの識別については、車両の運用を優先したため、一部路線でのカラーリングの統一が図れなかった。
28	環境配慮型車両、バリアフリー車両や新システム等の導入可能性の検討	○	・環境配慮型車両・バリアフリー車両や新システム等の導入可能性の検討については、市の脱炭素化事業との連携による路線バスでのＥＶ車両導入や中心市街地をめぐるグリーンスローモビリティ（電動小型カート）の研究に留まった。

体系⑥ コンパクトなまちづくりの推進

・体系⑥に位置付けた事業は、計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [○:計画通り進捗 △:進捗に課題がある]

番号	事業名	令和 5 年度までの進捗	
		実施状況	主な実施概要
29	居住誘導区域への居住推進	○	・市外から居住誘導区域への移住や市内における転居を促進するため、支援制度の拡充と周知を図った。
30	都市機能集積の推進	○	・立地適正化計画の都市機能の集積の中に位置付けられている教育交流拠点としてくろべ市民交流センターあおーよの整備が完了し、令和 5 年 10 月にオープンした。
31	市民アンケート調査や新幹線の利用状況調査の実施	○	・令和 2 年度から 4 年度にかけて、市内の路線バスにおいて利用目的や乗降バス停等の利用者ニーズ調査を実施した。 ・令和 5 年度は、市民アンケート調査、路線バス利用者アンケート調査、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅利用者アンケート調査を実施した。
32	公共交通の評価、検証	○	・現行の第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画のフォローアップを毎年実施し、進捗状況や指標を整理している。

(3) 第2次網形成計画での主な成果

○ 公共交通網の一定のサービス水準を確保

- ・コロナ禍に伴い利用者数が減少する厳しい事業環境の中で、公共交通の一定水準の利便性を確保することができた。
ex) ・路線や運行本数等の維持
・公共交通空白地域の解消（池尻線） 等

○ まちづくりと連携した取組により公共交通の利便性が向上

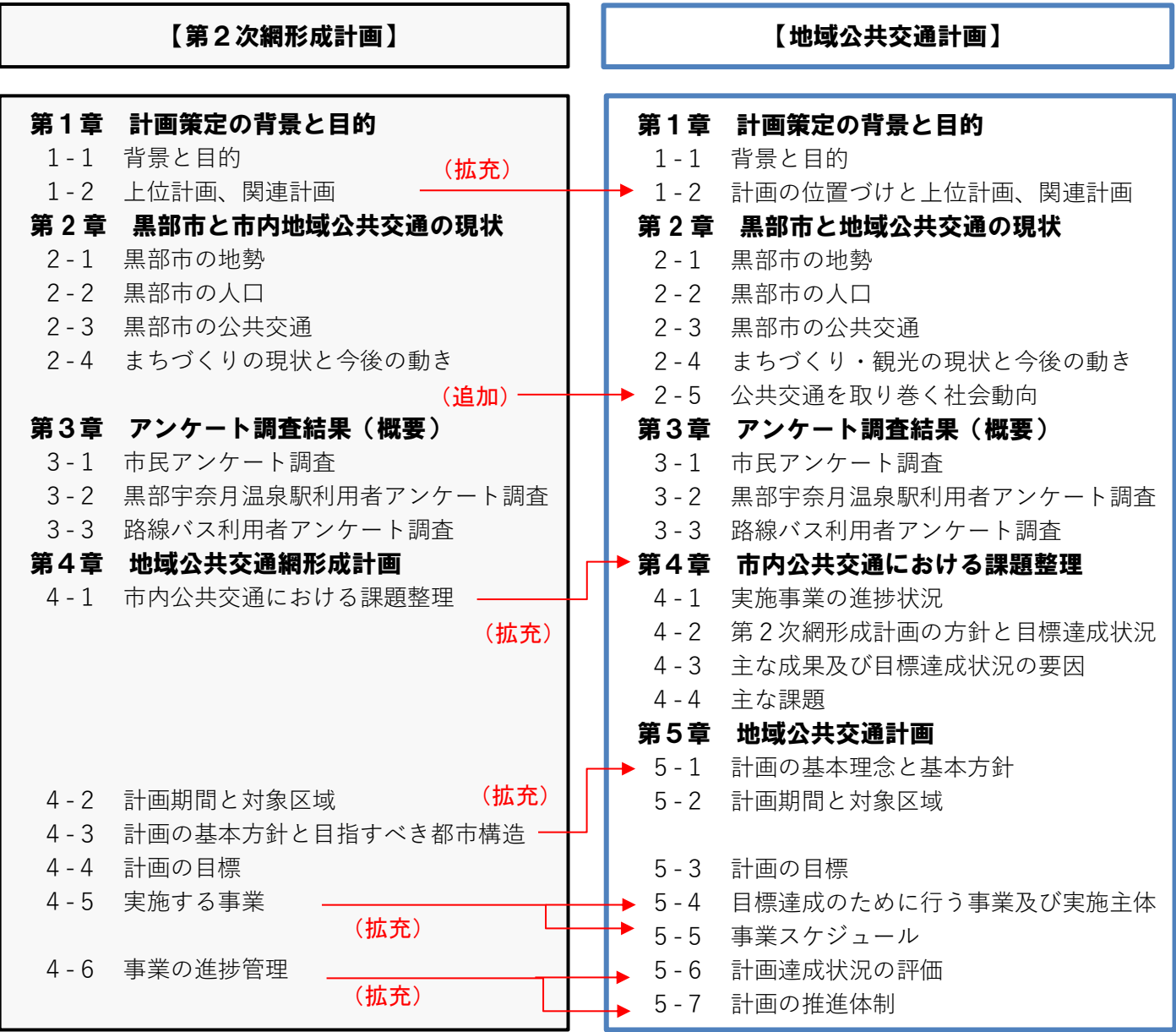
- ・新たな交流施設や居住施設の整備に合わせた路線の延伸等により、公共交通の利便性が向上した。
ex) ・道の駅 K O K O くろべへの路線バスの乗入れ
・ I - T O W N へのバス停の新設（新幹線生地線・南北循環線） 等

○ 利用促進の取組等により一定の利用者数を確保

- ・様々な広報媒体等を活用した利用促進の取組等により、コロナ禍に伴い落ち込んだ利用者数が回復傾向となる路線が多くなっている。
ex) 令和元年度との利用者数比
・あいの風とやま鉄道：74.4%(R 2 / R 1)→83.7%(R 4 / R 1)
・富山地方鉄道：72.1%(R 2 / R 1)→85.5%(R 2 / R 1)
・南北循環線：58.8%(R 2 / R 1)→69.5%(R 2 / R 1) 等

3. 計画の構成

・黒部市地域公共交通計画の計画構成は、国の基本に基づき、以下のように構成する。



4. 計画期間と計画区域

- ・地域公共交通計画の計画期間は、国の指針に基づき、令和 6 年度（2024 年度）から令和 10 年度（2028 年度）の 5 年間とする。
- ・地域公共交通計画の計画区域は、現行計画を踏襲し、黒部市全域とする。

計画期間：令和 6 年度（2024 年度）から令和 10 年度（2028 年度）の 5 年間
対象区域：黒部市全域

5. 計画の基本理念と基本方針

(1) 基本理念

- ・地域公共交通の現状と課題を踏まえ、基本理念を次のように設定する。

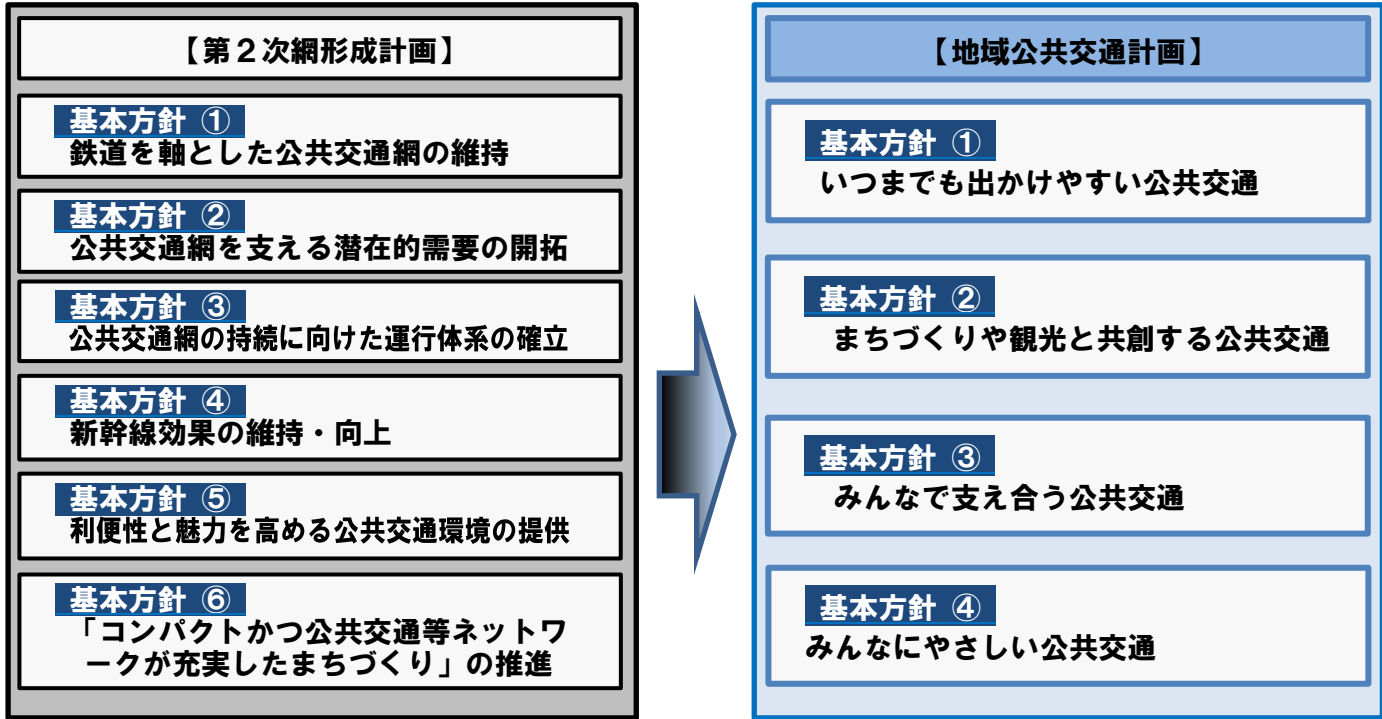
基本理念

出かけてたのしいまちを育み 地域が一体となってまもり育てる
未来へつながる公共交通

- ▶ まちづくりの推進と公共交通の連携により誰もが出かけやすい、出かけて楽しいまちを育む。
 - ▶ 地域住民・行政・交通事業者等の関係者が一体となって公共交通を育てる。
 - ▶ 鉄道を基軸とした持続可能な公共交通ネットワークの確立
- ・本市では、上位計画である第2次総合振興計画基本構想の公共交通分野における施策は、「便利で優しい地域交通ネットワークの充実」を掲げており、関連計画の立地適正化計画においては「コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり」を基本理念としている。
- ・これらの施策を推進するためには、出かけて楽しいまちづくりとそれを支える移動手段を確保することや、公共交通利用者である地域住民だけでなく行政や交通事業者等が一体となって取組を実施すること、鉄道をはじめ、バスやデマンド交通など多様な交通手段が連携することが必要である。
- ・本計画では、本市公共交通の目指すべき姿の実現に向け、基本理念を『出かけてたのしいまちを育み 地域が一体となってまもり育てる 未来へつながる公共交通』と定めるものである。

(2) 計画の基本方針

- ・基本理念の実現に向け、地域公共交通計画の基本方針を以下のように設定する。



6. 計画の目標

- ・計画の基本方針の進捗状況を評価するため、計画の目標（数値指標）を、以下のように設定する。

【地域公共交通の目標（案）】

基本方針	計画の目標	目標指標	現状値 (集計期間)	目標値 (集計期間)
基本方針 1 いつでも出かけるやすい公共交通 [関連]目標 ⑤	目標 ① 利便性の高い公共交通の維持 鉄道の乗継や、市内路線等のダイヤ、ルート、運賃などを見直し・改善することで、路線の維持・充実を図り、市内において利便性の高い地域公共交通ネットワークを確保する。	市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数【継続】	現状値及び目標値については、素案の段階で設定します。	
		市内鉄道の利用者数【継続】		
基本方針 2 まちづくりや観光と共創する公共交通 [関連]目標 ①	目標 ② 公共交通事業の運営効率化 市内路線等の見直しや交通資源のフル活用等により、公共交通事業の効率的な運行を図り、持続可能な地域公共交通を目指す。	市内路線バス・コミュニティ交通の利用者一人当たりの財政負担額		
	目標 ③ 出かけるやすい交通手段の提供による中心市街地の活性化 拠点となる駅を位置づけ、駅までの路線の維持や中心市街地内の回遊を促し、出かけるやすい交通手段を提供することにより、市民の生活を支え、中心市街地の活性化に寄与する。	中心市街地バス停利用者数		
基本方針 3 みんなで支え合う公共交通 [関連]目標 ①②	目標 ④ 観光まちづくりとの連携による賑わいの創出 観光地までの路線の維持や利便性向上、観光地での周遊を支える交通の充実により、観光まちづくりと連携し賑わい創出に寄与する。	黒部宇奈月温泉駅乗車人数		
	目標 ⑤ 公共交通を地域で支える意識の醸成 アフターコロナを見据え、転居や免許返納、乗車体験会などをきっかけとして、公共交通を身近に感じ、利用を促進することで、地域で公共交通を支える意識を醸成する。	スポンサー、サポーター制度の立ち上げ、参加者数		
基本方針 4 みんなにやさしい公共交通 [関連]目標 ①	目標 ⑥ 誰もが分かりやすい交通情報の提供 ホームページや交通情報提供システム等の充実を図ることにより、誰もが分かりやすい利用環境づくりを行う。	「公共交通で行こう」ホームページアクセス数		

7. 実施する事業

・計画の基本方針や目標を実現するために実施する事業を、以下のように設定する。

：新規施策

【 第 2 次 網形成計画 】

基本方針	番号	実施事業	対応
① 鉄道を軸とした公共交通網の維持	1	北陸新幹線と市内交通機関との連携	(地域公共交通計画「①-1」で継続)
	2	あいの風とやま鉄道と市内交通機関との連携	(地域公共交通計画「①-2」に集約)
	3	富山地方鉄道本線と市内交通機関との連携	(地域公共交通計画「①-2」に集約)
	4	新幹線市街地線の維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	5	新幹線生地線の維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	6	生地循環線の維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	7	石田三日市線の維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	8	池尻線の維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	9	南北循環線の維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	10	愛本コミュニティタクシーの維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	11	デマンドタクシーの維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「①-3」に集約)
	12	アルペンライナー（宇奈月温泉立山室堂線）の維持及び利便性向上	(地域公共交通計画「②-7」で継続)

【 地域公共交通計画 】

基本方針	目標	基本施策	番号	実施事業(案)		関連する基本方針			
						①	②	③	④
①いつまでも出かけやすい公共交通	目標① 目標② 公共交通事業の運営効率化 利便性の高い地域公共交通の維持	(1) 鉄道・路線バス等のサービスを維持改善する	①-1	北陸新幹線の利用促進と活用	・通勤通学支援補助金 ・地域鉄道や路線バスとの接続 ・沿線温泉地との連携（三温泉駅物語） ・新幹線駅の利用促進に向けた取組	◎	○	○	○
			①-2	地域鉄道の維持及び利便性向上 【対象路線】 ・あいの風とやま鉄道 ・富山地方鉄道本線	・利用促進の取組 ・鉄道事業者への支援 ・サイクルトレイン等の利用促進	◎	○	○	○
			①-3	路線バス・コミュニティ交通の運行及び利便性向上 【対象路線】 ・新幹線市街地線 ・新幹線生地線 ・生地循環線 ・石田三日市線 ・池尻線 ・南北循環線 ・愛本コミュニティタクシー ・デマンドタクシー ・他町から市内へ乗り入れる路線バス	・ダイヤ、ルートの改善 ・乗継ぎ利便性の向上 ・イベントに対応した運行の検討 ・運行事業者への支援 ・クロスセクター効果の把握・分析 ・カーボンニュートラルの推進 ・他自治体が運行する路線バスとの連携	◎	○	○	○
			①-4	集客施設への需要に合わせたバス路線の見直しによる利用促進	・新たな施設利用に対応した運行の見直し	◎	○	○	
			①-5	実情を踏まえた運行形態の見直しの検討	・デマンド交通等の導入検討 ・A I による効率的な運行の検討	◎		○	
			①-6	路線バス・コミュニティ交通の運賃制度の見直しの検討	・運賃体系や運賃の見直しの検討 ・学生や高齢者に対する割引制度の検討 ・定期券の検討 ・共通パスの導入の検討	◎		○	
		(2) 輸送資源を総動員する	①-7	福祉、教育、観光、医療、商業等と連携した運行の検討	・多様な分野との連携による輸送資源の活用方策の検討	◎	○	○	
		(3) 交通事業者の経営を支える	①-8	運転手確保の取組への支援	・事業者連携による取組 ・人材の雇用・育成等に関する支援策等の検討 ・労働環境整備への支援策等の検討	◎		○	

【 第 2 次 網形成計画 】

基本方針	番号	実施事業	対応
⑥「コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり」の推進	29	居住誘導区域への居住推進	—
	30	都市機能集積の推進	—
	31	市民アンケート調査や新幹線の利用状況調査の実施	—
	32	公共交通の評価、検証	—

【 地域公共交通計画 】

基本方針	目標	基本施策	番号	実施事業(案)		関連する基本方針			
						①	②	③	④
②まちづくりや観光と共創する公共交通	目標③ 目標④ 観光まちづくりとの連携による賑わいの創出 でかけやすい交通手段の提供による市街地の活性化	(4) 駅周辺のまちづくりと中心市街地の活性化を促進する	②-1	黒部駅における施設整備の推進	・ 駅西側改札、こ線橋、エレベーター等の整備検討	○	◎	○	○
			②-2	生地駅移転事業の調査・検討	・ 事業による波及効果や財源の検討	○	◎	○	○
			②-3	中心市街地におけるよりきめ細かな移動手段の創出	・ 電動小型カートの導入	○	◎	○	○
			②-4	無料公共自転車「ちょいのり黒部」の整備・運用	・ 自転車の増台 ・ ステーションの増設 ・ 運用の見直しの検討	○	◎		
			②-5	黒部宇奈月温泉駅駐車場の運用方法の検討	・ 有料化や料金設定の検討		◎	○	○
		(5) 観光とともに賑わいをつくる	②-6	アルペンライナーの維持及び利用促進	・ 運行や利用促進に対する支援 ・ 黒部宇奈月キャニオンルートとの連携		◎		
			②-7	黒部宇奈月キャニオンルート一般開放に伴う既存公共交通の利用促進	・ 黒部峡谷鉄道や黒部宇奈月キャニオンルートとの連携によるダイヤの構築 ・ イベントや企画旅行とタイアップした運賃割引 ・ M a a S コンテンツの充実	○	◎		
			②-8	自転車事業の推進	・ サイクリングロードマップを活用した事業との連携 ・ 観光レンタサイクル事業の実施		◎		

【 第 2 次 網形成計画 】

基本方針	番号	実施事業	対応
②公共交通網を支える潜在的需要の開拓	13	情報提供や利用促進に向けた取組の充実	(地域公共交通計画「③-2、④-1」で名称を変更し継続)
	14	利用促進に向けた運賃設定と企画切符等の発行	(地域公共交通計画「③-2」で名称を変更し継続)
	15	運転免許自主返納と連携した利用促進	(地域公共交通計画「③-1」で継続)
	16	黒部宇奈月温泉駅駐車場の運用方法の検討	(地域公共交通計画「②-5」で継続)
	17	交流施設の整備に合わせたバス路線の見直し	(地域公共交通計画「①-4」で名称を変更し継続)
③公共交通網の持続に向けた運行体系の確立	18	バス路線等の定期的な見直しの検討	(地域公共交通計画「①-3、①-4」で集約)
	19	路線バスとスクールバス等との一体的な運行に向けた検討	(地域公共交通計画「①-7」で名称を変更し継続)
	20	運転手確保の取組への支援	(地域公共交通計画「①-8」で継続)
	21	地域バス・タクシー導入可能性の検討	(地域公共交通計画「③-5」で名称を変更し継続)
④新幹線効果の維持・向上	22	黒部ルート一般開放に伴う既存公共交通の利用促進	(地域公共交通計画「②-8」で継続)
⑤利便性と魅力を高める公共交通環境の提供	23	バス待合環境の改善	(地域公共交通計画「④-4」で名称を変更し継続)
	24	無料公共自転車「ちょいのり黒部」の整備・運用	(地域公共交通計画「②-4」で継続)
	25	駅施設の修繕・改善とパーク＆ライド駐車場の整備	(地域公共交通計画「④-3」で名称を変更し継続)
	26	交通情報提供システムを利用した利便性の向上	(地域公共交通計画「④-2」で継続)
	27	車両及びバス停のデザイン化促進	(地域公共交通計画「④-6」で継続)
	28	環境配慮型車両、バリアフリー車両や新システム等の導入可能性の検討	(地域公共交通計画「④-5」で継続)

【 地域公共交通計画 】

基本方針	目標	基本施策	番号	実施事業(案)	関連する基本方針			
					①	②	③	④
③みんなで支え合う公共交通	目標⑤公共交通を地域で支える意識の醸成	(6) 公共交通を積極的に利用する	③-1	運転免許自主返納と連携した利用促進	・免許返納者に対する支援 ・警察署等と連携した制度の周知	○		◎
			③-2	モビリティ・マネジメントの推進	・体験乗車会等の開催 ・親子でおでかけ事業の実施 ・企画切符等の発行 ・ノーマイカーデーの促進 ・児童生徒に対する取組の検討	○		◎
			③-3	交通ＤＸの推進による利用促進	・ＭａａＳアプリの導入検討 ・キャッシュレス決済の導入検討	○		◎ ○
		(7) 支え手・担い手の参加を促す	③-4	企業・店舗等との共創の促進	・ホームページ等による意識啓発の実施 ・スポンサー、サポーター制度の導入 ・企業、店舗等とのタイアップ企画の検討（スタンプラリー事業等） ・企業による利用促進施策	○	○	◎ ○
			③-5	地域で支える新しい移動手段の検討	・町内会や地域住民で支え合う移動手段の導入検討	○	○	◎
④みんなにやさしい公共交通	目標⑥誰もが分かりやすい交通情報の提供	(8) わかりやすく運行情報を伝える	④-1	情報提供の充実	・ホームページ、マップ、広報による周知	○		◎
			④-2	交通情報提供システム等の活用・利用促進	・ＧＴＦＳデータを活用したやまろケーションシステム、デジタルサイネージの運用、周知 ・リアルタイム運行情報等へのアクセス改善	○		○ ◎
		(9) 施設や車両を改善する	④-3	駅舎及び附帯施設の修繕・更新	・駅施設の改善、バリアフリー化 ・地鉄駅トイレ整備の検討 ・駐輪場の維持管理	○	○	◎
			④-4	バス停の増設と待合環境の改善	・バス停上屋、ベンチ等の整備	○		◎
			④-5	環境配慮型車両、バリアフリー車両による運行や新システム等の導入の検討	・環境配慮型車両、バリアフリー車両の拡充 ・自動運転等の先進技術の導入の検討	○		◎
			④-6	車両、バス停等のデザイン化の検討	・車両、バス停、印刷物等の路線別ナンバリング ・親しみやすいデザインの検討	○		◎

8. 今後のスケジュール（予定）

会議等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
黒部市公共交通戦略推進協議会及び作業部会の開催								↔			↔	↔
			・現状把握、課題整理 ・課題解決に向けた取組の整理 ・路線バス指標の整理					・計画骨子の検討			・計画（案）の検討	
パブリックコメント											↔	
実施作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 公共交通に関する現況整理	←→											
2. 利用者ニーズ調査						←→						
3. 黒部市地域公共交通計画（案）の作成								←→				